



播磨 ミステリーハント

播磨町の歴史や偉人の「?」と「!」について、秘められたトピックスなども交えながら紹介します。

文責 播磨町郷土資料館 館長 宮柳靖
☎079(435)5000

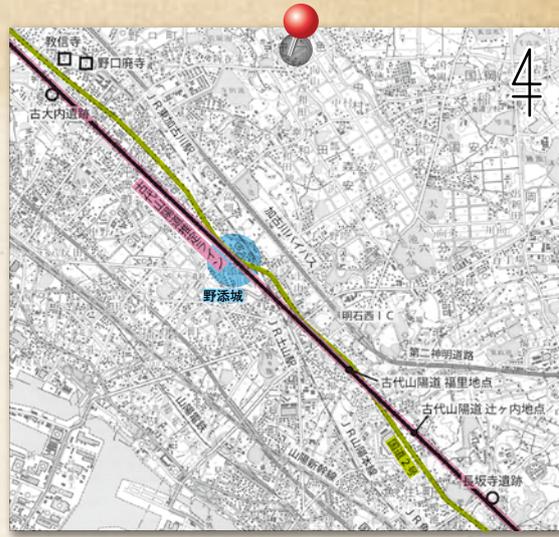
Mystery.7

古代山陽道は 国道2号線と並走!?

古代山陽道は、いつ整備され、播磨町のどこを通っているのか、と尋ねられることがあります。この道路は、奈良時代から平安時代にかけて整備・利用されていました。

これは、中央集権体制を強化するために整備された幹線道路で、都(平城京・平安京)と九州の大宰府を結ぶ唯一の大路でした。沿道には、馬の乗り継ぎや休憩・宿泊のための役所が設けられ、**駅家**と呼ばれました。駅家は、30里(当時の1里は約540mで30里は約16km)ごとに置かれていましたが、播磨国では、半分の距離の15里ごとに九つの駅家が置かれています。駅家の中心となる建物は「**駅館院**」と呼ばれ、築地塀で四角く囲まれた内側に6~7棟以上の瓦葺きの建物が建ち並んでいました。その広さは、80~90m四方の方形(四角形)で、山陽道に面した側には格式の高い八脚門がありました。特に、外国の使節団も利用する山陽道の駅館は、瓦葺き・丹塗り(朱色)の柱で白壁造りだったので彩り鮮やかな建物でした。

駅家の場所が特定された遺跡は、すべて兵庫県内で、龍野市小犬丸遺跡(布施駅家)、上郡町落地遺跡(野磨駅家)、加古川市古大内遺跡(賀古駅家)、明石市長坂寺遺跡(邑美駅家)の4例のみです。その中でも賀古駅家は日本最大の駅家で、標準の倍の40頭の駅馬が置かれ



▲古代山陽道と関連遺跡・寺院 (兵庫県古代官道関連遺跡調査報告書Iより)

ていました。長坂寺遺跡は、平成23年3月、県立考古博物館によって発掘調査が行われ、出土品や遺構の跡から駅家跡と確認されました。しかし、この駅家の記録は残っておらず、当時の地名などから邑美駅家と呼ばれています。この駅家と賀古駅家を直線で結ぶ線上の明石市二見町福里などで道路跡が見つかっており、山陽道が直線道路であったことが裏付けられました。側溝は幅70cmですが、道路は現在の高速道路と同じ道幅で14mもありました。道は小石を敷き詰めて補強されていますが、補修にお金がかかり平安時代には狭くなっています。それでも道幅は9mもありました。また、福里の稗沢池では、道路が池の真ん中を通っており、堤防にその痕跡がみられます。

播磨町では、城池の北側を通り、野添城3丁目^{じょういけ}で国道2号線と並行して走っています。古代山陽道が現在まで使われていたら、国道2号線は直線道路で今の倍以上の道幅となり、沿道の風景も随分違っていかかもしれません。

播磨町のホームページ http://www.town.harima.lg.jp
Eメール kikaku@town.harima.lg.jp



町の人口 9月1日現在 住民基本台帳人口+外国籍人口。()は前年比。

34,796人(+8人)	男…17,056人(+14人)	世帯数…14,270世帯(+13世帯)
	女…17,740人(-6人)	